



Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

Eiche

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 第二ワールド ナーシング ホーム内
TEL 047-461-9111 FAX 047-461-7010

滞日ドイツ人留学生との 親善バスハイクが千葉へ

毎年10月に(財)日独協会が実施する、滞日ドイツ留学生及び企業研修生との親善バスハイクが今年は「房総の日独交流の足跡を訪ねて」という主旨で千葉にやってくる事となった。コースは

1. 船橋市習志野霊園参拝
2. 御宿町の(財)五倫文庫(ドイツの童話 struwwelpeter-ぼうぼう頭の邦訳本展示)見学

メキシコ記念塔(1609年御宿沖で難破したメキシコ船から317名を救助)見物及び「月の砂漠」の詞の舞台となった浜辺散策。

浜辺のホテルで日独親善パーティー。

の予定。詳細は後日、本紙にて連絡致します。

ドイツ軍人追悼慰霊祭

当協会発足の契機となった恒例の「ドイツ軍人追悼慰霊祭」は、昨年もドイツ国民哀悼の日(Volkstrauertag)に因んで11月25日(日)に船橋市習志野霊園に於いて挙行された。

当日は小春日和の天候に恵まれ、11時より当協会平田英男常任理事の司会で始まり、まず国枝誠昭副会長の開会挨拶後、30柱の御霊に黙祷を捧げ、ドイツ国歌演奏がテープで流された。次いで、ドイツ大使館国防武官ライムント・ヴァルナー海軍大佐及び当協会平尾浩三会長、藤代孝七船橋市長(小野武志環境部長代読)により、慰霊の辞(大佐及び会長の辞は裏面に掲載)が述べられた。ヴァルナー大佐には、一昨年同様、武官補佐官フランク・モッテ准尉がドイツ国旗と同色の「黒赤金」のリボンをつけた大きな花輪を掲げ随行し、花井清当協会理事により、病死された30柱の御霊の階位と氏名が読み上げられたあと伝統的なドイツ葬送歌"Der gute Kamerad"(よき仲間)を合唱した。その後、花輪を先頭に参列者全員が菊を献花。又、昨年秋船橋市役所のご厚意により、墓石の周囲に生い茂っていた植木が見事に伐採手入れされており、一同を感動させた。

その後、親子2代に亘って、この墓を守ってこられた石崎満理事(産婦人科医院長)の父申之氏の墓に参拝。12時過ぎに近くのレストラン「カーサ」にて直会を行って会員の交流を深め、2時過ぎに散会した。



墓碑に敬礼するヴァルナー大佐とモッテ准尉



後列中央ヴァルナー大佐、モッテ准尉、大佐左に平尾会長、小野環境部長、准尉の右に林理事、石崎理事

習志野における 2001 年度慰霊祭

ドイツ連邦共和国大使館
国防武官海軍大佐ライムント・ヴァルナー

ここ習志野の墓地に参りますのはこれで3回目ですが、訪れる度に、皆様がここに埋葬されているドイツ兵士に示されるお気持ちに接し、大きな感銘を受けます。ただ、加藤吉昭先生がおられない慰霊祭は今回が初めてで、改めて寂しい想いが致します。駐日ドイツ大使に代わりまして、皆様が、そして特に千葉県日独協会の皆様が、それぞれに可能な形で慰霊碑の維持の為お示し下さった御尽力に感謝申し上げます。また今後の御支援とこの厳粛な慰霊祭の継続を心よりお願い致します。さらに、本日の午後にカトリック習志野教会で初めて行なわれる、ドイツ人兵士の為のミサ実現にむけて御尽力下さったサワ様とツツイ様にも御礼を申し上げたいと思います。

ドイツでは今日が死者哀悼の日曜日になっています。この日にはドイツ国民が亡くなった人全てに思いをはせる事になっています。私達は今、1915年から19年にかけてここで亡くなったドイツ人兵士30名の慰霊碑の前にいます。彼らが命を落としたのは戦闘の中ではありませんでした。戦争は1914年11月7日の日本軍のチンタオ攻略で終わっていました。当時イギリスと同盟関係にあった大日本帝国の戦争捕虜として亡くなったのです。皆様もご存知のように、彼らの大半は西郷寅太郎収容所長と共に1919年に収容所で流行したスペイン風邪の犠牲となりました。

最後の死亡者が埋葬されて82年経った今、皆様は例年の通りここに立ちドイツの国防武官と共に慰霊祭を行っております。皆様のような方々がおられるからこそ、日独両国は遠く離れているが誠に近い存在です。ここに眠る人たちの魂が今いる所から、大きな感謝の気持ちを持って、私たちがここに集うのを眺めていると確信しています。彼らの悲劇的な死に寄せる思いが、友好の礎となってきたのです。これ以上の関係はないと思います。

それゆえ私の前任者たちにならい、例年のごとく11月に駐日ドイツ大使の名代でここに献花をしたいと存じます。我々ドイツ人が皆様のような友人を持っているのは嬉しい事です。

このように若くして亡くなった人々を思う時、同情と深い悲しみがわいてきます。ここに眠る兵士と亡くなった人々全ての為に、しばしの間、思いをはせましょう。皆様のお身内の戦没者の方々、そして全世界の戦争による幾多の犠牲者にも思いを寄せましょう。この人たちはみな、平和の尊さを私たちに教えています。そして、アフガニスタンやその他の地域で国際テロとの戦いの中で犠牲となった、あるいはこれから犠牲となるかもしれない罪のない人々や戦死者の為に祈りましょう。最後に、あまりにも早く亡くなられた私たちの友人、加藤吉昭先生のご冥福もお祈りしましょう。

～2002年の主な催物案内～

▶ 理事会 3月15日(金) 18:30
於船橋東部公民館

- 5月 総会・講演会
- 6月 チャター演奏会
- 9月 ビール祭り
- 10月 (財)日独協会主催バスハイク
- 11月 ドイツ軍人慰霊祭
- 12月 (財)日独協会主催クリスマスパーティー

追悼・慰霊の辞

千葉県日独協会会長 平尾浩三

本日、在日ドイツ連邦共和国大使館付国防武官・海軍大佐 Reimund Wallner 氏にお出ましいただき、千葉県日独協会主催のもとに、ここ習志野霊園において、平成十三年度(二〇〇一年度)ドイツ軍人戦没者追悼慰霊祭を執り行う事のできますことを、Wallner 大佐に対し、そして参列の皆様に対して、まず御礼申し上げます。

ドイツではやはり十一月に「ドイツ国民哀悼の日」 Volkstrauertag がございます。それは、大統領以下の全ドイツ国民が、第一次、第二次大戦におけるドイツ人戦没者を追悼する「国民祭日」でありまして、世界の約五百箇所のドイツ人戦没者墓地にて追悼の式典を執り行い、「和解と相互理解、そして世界平和への思いを新たにす日」となっております。ゆえに私たちの行事も、Volkstrauertag に合わせて、本日催すものであります。

さて、ここ習志野霊園には、ドイツ人三十柱の御霊をおまつり致しております。第一次大戦において、日本軍は四六八九名の方々を捕虜として日本へ移送し、習志野にも一九一五年から一九二〇年に至る五年の間、捕虜収容所が設けられていたのであります。

ところが一九一九年冬、わが国を襲った流行性感冒(スペイン風邪)の為に、計三十名の方々がこの地にて永久の眠りに就かれたのであります。御霊は当初、陸軍墓地にまつられておられましたが、その後、昭和四十五年(一九七〇年)に、習志野霊園が建設され、墓碑はこの地に移されました。

遥かなるドイツへの望郷の思い止み難きを拝察しつつ、年に一度ここに有志集いで御霊をお慰め致す次第であります。五年前に植樹しましたドイツ柏の樹、原産地は南ドイツ Schwarzwald でありますが、それもいつしか習志野の土に根を伸ばし、かくも大きく成長しました。御霊よ、どうかドイツの薫りをお受けくださり、安らかに、安らかに、憩われますよう。

では、お国の生んだ大詩人 Goethe、私どもの導きの星 Goethe の言葉をここに読ませていただきます：

Gottes ist der Orient! (神の東洋)
Gottes ist der Okzident! (神の西洋)
Nord-und Südliches Gelände (北と南の国々も)
Ruht im Frieden seiner Hände. (神の御手に抱かれ憩ふ)

現実世界は殺伐として戦火流血の絶えぬ今日なればこそ、お国の詩人 Goethe の、この経験にして寛らかなる言葉は、私たちの胸に、いよいよ深く染み入るのであります。人類の平和と幸福を求めて歩み続ける私ども、御霊よ、どうか温かく、お守りください。追悼の言葉、祈りの言葉とさせていただきます。